

(5) 東海



東海地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

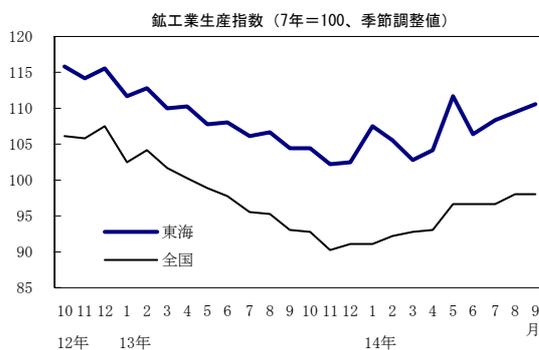
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 8 月)	今回 (平成 14 年 11 月)	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。

輸送機械は、自動車の国内向けが一部小型車で動きが続いていることに加え、米国を中心とする輸出向けが全体をけん引する動きも続いていることから堅調に推移している。一般機械は、土木建設機械が公共工事等の減少等により低迷しているものの、金属工作機械では輸出向け、国内向け共に自動車関連が動き、繊維機械でも中国向け輸出が好調な織機等に支えられ好調に推移していることから、全体でも増加している。電気機械は、家電や電子計算機・同関連装置が弱含みとなっているものの、重電機が下げ止まり、半導体集積回路が増加していることから、全体でも増加している。窯業・土石は、陶磁器の生産が低調であり、ファインセラミックスも横ばいとなっていることから、全体でも横ばいとなっている。化学は、自動車向けのウレタンフォームを中心とするプラスチックに動きがみられ、全体で増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

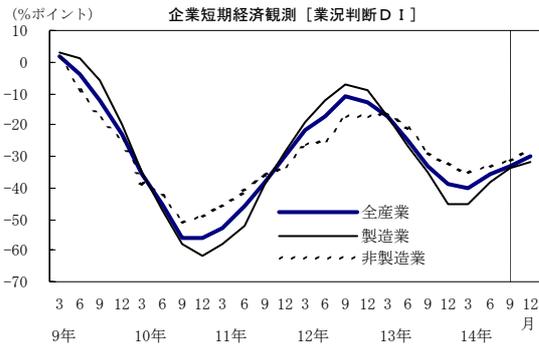
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	30.3	0.6	0.7	0.4	16.2
一般機械	11.4	4.3	5.0	2.9	▲2.5
電気機械	11.2	6.5	5.2	1.5	▲8.3
窯業・土石	7.3	0.7	▲0.4	0.8	▲2.0
化学	5.7	4.1	4.4	1.3	2.0
鉱工業	100.0	2.1	1.8	0.5	▲1.2

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。
3. 7~9月期は速報値。

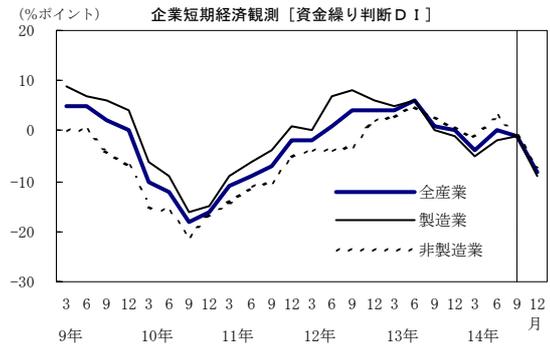
(備考) 平成14年9月の東海は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

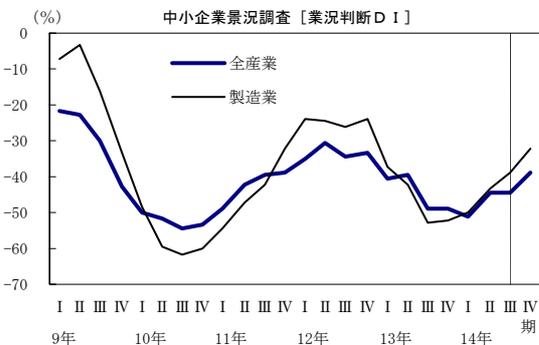
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。14年IV期は見通し。
中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「トラックの積み荷台数、輸送台数、受注台数とも、ほとんど変わらない (輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

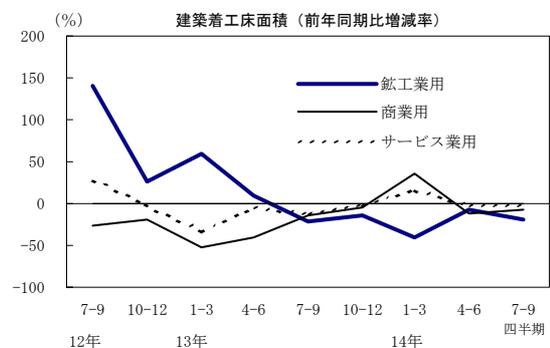
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	▲6.5	▲1.4 [▲1.2]
製造業	5.2	0.1 [0.7]
非製造業	▲14.6	▲2.7 [▲2.9]

(備考) [] は前回 (6月) 調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

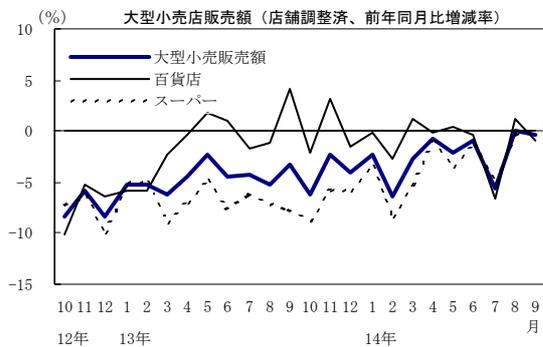
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月は台風の影響等により夏物衣料が婦人服・子供服・洋品を中心に低調だったこと等から、前年を下回った。8月は猛暑の影響から夏物衣料が婦人服等や身の回り品を中心に好調で、飲食料品も好調だったことから前年を上回った。9月は、引き続き飲食料品が底固く推移したが、全般的な低価格傾向、消費行動の慎重さが引き続きみられたこと等から、前年を下回った。

スーパーは、低価格傾向による衣料品の不振が続いているものの、飲食料品は底固く推移したこと等から、7～9月期にはマイナス幅が縮小するなど、やや持ち直す動きもみられる。

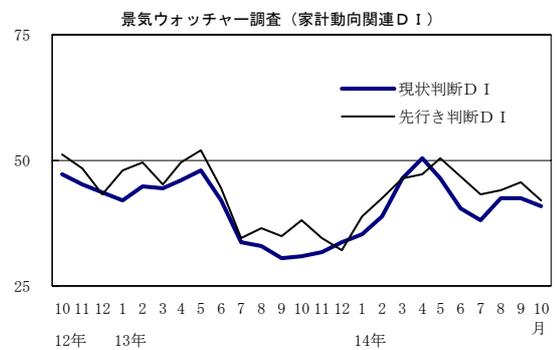
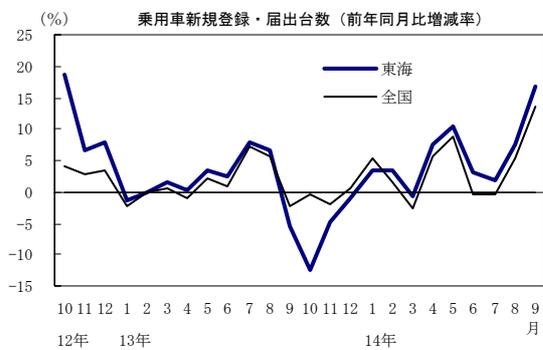
景気ウォッチャー調査（10月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「来客数は少し増加しているが、客単価が低い（コンビニ）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	（前年同期比増減率、単位：％）			
	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	▲4.2	▲3.7	▲1.3	▲2.2
百貨店	▲0.3	▲0.4	0.0	▲2.8
スーパー	▲6.7	▲5.6	▲2.0	▲1.8
乗用車	▲6.1	1.5	6.5	8.6
景気ウォッチャー	32.1	40.2	45.8	40.8

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。中部地区の値。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家を中心に前年を下回っていることから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を上回っている。

